

鈴木会頭 新春のご挨拶『会員の皆様の商売繁盛のために』

謹んで新春のお祝いを申し上げます。

昨年末の突然の国政選挙を経て、国の経済政策やエネルギー政策がどのようになっていくのか目が離せない中、なかなか一般・国内の消費が増えないまま、円安で原材料やエネルギーのコストは上がり、働き手は集まりにくいなど、地域の中小企業の経営の現場は依然として厳しい状況にあります。当地においても、景況調査によると、業種、業態によっては直近では回復の兆しが垣間見えているところもあるようですが、中長期的には予断を許さない状況であることは違いがありません。自企業の経営にも当所の運営にも、感度のいい耳目と冷静な頭と、そして果敢かつ迅速に動ける足腰が求められていると実感する今日この頃です。

さて、言うまでもなく、当所の一丁目一番地の役割は、会員企業の皆さまの商売繁盛のお手伝いです。様々な中小企業の経営に関する支援プログラムを、日本商工会議所はじめ、県下の各団体や行政や金融機関とも連携しながら活発に展開しておりますが、使い勝手や分かりやすさなどまだまだ改善の余地があると認識しております。引き続き、努力してまいります。

また、昨年初めて実施した会員満足度調査から多くの会員から期待を寄せられていることが分かりました「まちづくりの推進」と「行政への意見具申」については、積極的に動き始めたところであります。まだまだ端緒についたばかりの小田原駅周辺も含む中心市街地の活性化、箱根ジオパークを活用した観光促進、県の県西地区活性化策としての「未病を治す」取り組み、産業まつり「小田原箱根博覧会」の拡充、地域密着のエネルギー事業への支援など、小田原箱根を挙げてまちを元気するための取り組みを、7つの部会、女性会、青年部、そして、7つの特別委員会を中心に展開してまいります。当所が標榜する「議論して、行動して、結果を問う」会議所の実現は会員の皆さまの参画なしにはなしえません。是非、さらなる忌憚のないご意見と積極的な参加をお願い申し上げます。

地球温暖化や天然資源などの環境制約と人口構造の劇的な変化の中で成熟期を迎えた日本経済の持続可能な姿とは?地域でいかにお金を循環させるか?そして、真の豊かさとは何か? 地元経済団体として活発に議論をし、積極的に行動してまいりたいと思います。

この一年が皆様にとって実り多き年になりますことを、そして、この小田原・箱根の地の安寧を祈念申し上げ、年頭のご挨拶とさせていただきます。

会頭 鈴木悌介